ふれあい茨城

2020.3 vol.111

CONTENTS

1 協会事業
第29回外国人による日本語スピーチコンテスト
2 Global View
～日本人と外国人が安心して安全に暮らせる社会の実現に向けて～
4 交流の広場
茨城県国際教育研究協議会の活動について
高校生によるグローバル社会に向けるメッセージ
わが町の外国人リーダー
Young Eyes
Across Culture
6 地球だより
ドミニカ共和国国立造形美術学校での日々
県だより
2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機とする国際交流の推進
7 For You
お知らせ
8 Said&Did

第29回外国人による日本語スピーチコンテスト

2月8日（土）、ザ･ヒロサワ･シティ会館小ホールにて、第29回外国人による日本語スピーチコンテストを開催しました。

このコンテストは、県内で生活している外国人の皆さんが日頃考えていることや、日本・茨城の印象、母国の話など、県民との相互理解を深めるテーマを日本語で発表し、異文化交流を促進するものです。当協会設立以来実施しており、今年で29回目を迎えました。

今年は51名もの方から応募があり、選考の結果、インド、インドネシア、ウズベキスタン、サウジアラビア、スコットランド、スリランカ、中国、ネパール、ブラジル、ベトナム、モンゴルの11カ国、男女15名が出場しました。

出場者の皆さん

茨城県知事賞
ボゾルボエフ サルドルフジャさん

茨城県議会議長賞
許　辰光さん

茨城県教育長賞
ケイトリン ローリソンさん

ひばり賞
ハードハヌイ バータルスフ ボロルエルデネさん

其々異なる文化的背景を持った15名が、日本での体験をもとに様々なテーマで話す内容は、どれもなるほどと感じるところがあり、考えさせられるものが多くありました。一つ一つのスピーチが聴衆の皆様に響くもので、国際理解を深める良い機会となったことと思います。

また、民族衣装を着てスピーチをした出場者もいて、華やいだ雰囲気が会場をさらに盛り上げてくれました。

司会は、笠間市国際交流員のアンドリュー　アイガルさん（アメリカ出身）と、茨城県国際交流員のローラ　ジャンさん（フランス出身）が務め、お二人の息の合った楽しいやり取りのおかげで会場が和み、発表者もリラックスし存分に力を発揮できました。

アトラクションでは、天神ばやし保存会の皆様による天神ばやしと、ス　ミャッ　ノー　アウン様によるミャンマー舞踊が披露されました。地元茨城県の伝統芸能である天神ばやしの演奏は圧巻で、その迫力ある姿は大変見ごたえがありましたし、ミャンマー舞踊の優雅な動きは、会場の方々を魅了するものでした。今年は会場の皆さんが舞台に上がり、一緒に踊るという参加型のステージパフォーマンスがあり、とても楽しいものとなりました。

天神ばやし

ミャンマー舞踊

今年は、15の協賛企業・団体から素晴らしい賞品を提供いただき、出場者の皆様に各賞が行きわたりました。また、当協会の事業ボランティアや茨城県世界青少年コミュニケーションクラブの皆様41名のご協力によって、運営をスムーズに終えることができました。

〈上位入賞者は以下の通りです。〉

賞	受賞者・タイトル
茨城県知事賞 若人賞	ボゾルボエフ　サルドルフジャ （ウズベキスタン出身） 「『ヤポン』と呼ばれて」
茨城県議会議長賞 日本語ボランティア賞	許　辰光 （中国出身） 「またきてね」
茨城県教育長賞	ケイトリン　ローリソン （スコットランド出身） 「日本食に慣れましたか」
ひばり賞	ハードハヌイ バータルスフ ボロルエルデネ （モンゴル出身） 「モンゴル人の名前」

GLOBAL VIEW

特集

～日本人と外国人が安心して安全に暮らせる社会の実現に向けて～

「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」により、国において多文化共生の取組みが開始されて１年が経ち、2019年12月にその改訂版が発表されました。「日本人と外国人が安心して安全に暮らせる社会の実現」に寄与することが目的です。いくつか内容をみてみましょう。

政府の「外国人材の受入れ･共生のための総合的対応策（改訂）」から

（詳細：法務省ウェブサイトhttp://www.moj.go.jp/content/001311603.pdf）

生活者としての外国人に対する支援（一部）

暮らしやすい地域社会づくり―行政・生活情報の多言語化

・安全・安心な生活・就労のために必要な基礎的情報（在留手続・労働関係法令・社会保険・防犯・交通安全等）について、「生活・就労ガイドブック」を政府横断的に作成し、電子版（日本語、英語、ベトナム語）をポータルサイトに掲載した。今後、14か国語に翻訳する。

・外国語で提供する行政情報・生活情報の更なる内容の充実と、多言語化による情報提供・発信を進める。

出典：法務省ウェブサイト
http://www.moj.go.jp/content/001312685.pdf
から一部抜粋

生活サービス環境の改善等―災害発生時の情報発信・支援等の充実

・外国人が必要とする防災・気象情報に容易にアクセスできるよう、防災・気象情報に関する多言語辞書の作成（11か国語）、当該11か国語多言語辞書の「Safety tips」への反映及び気象庁ホームページの多言語化（11か国語）を進めた。さらに対応言語を14か国語に拡大するとともに、民間事業者のウェブサイトやアプリ等を通じた防災・気象情報の多言語化を推進する。

図の出典：気象庁ホームページ
https://www.data.jma.go.jp/multi/index.html?lang=en

円滑なコミュニケーションの実現（日本語教育の充実）

・外国人が我が国において生活していく中で、日本語能力が不十分な場合、円滑な意思疎通が図れず、様々な場面において支障が生じ得る。外国人を日本社会の一員として受け入れ、外国人が社会から排除されること等のないようにするためには、より円滑な意思疎通の実現に向け、いわゆる第二言語としての日本語を習得できるようにすることが極めて重要であり、そのような観点から、外国人に対する日本語教育の取組を大幅に拡充し、外国人と円滑にコミュニケーションできる環境を整備する。

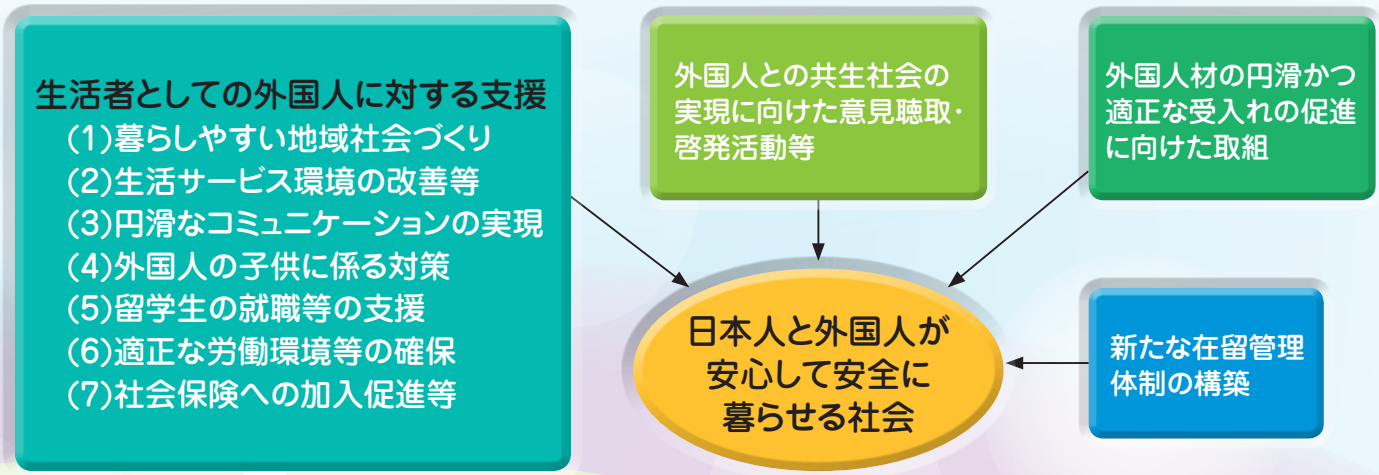


図　外国人材の受入れ･共生のための総合的対応策(改訂版)の枠組み(当協会作成)

在留資格をもつすべての外国人の皆さんが孤立せずに、日本社会の一員として生活するためには、日本における共生社会の理念及び慣習・文化を理解するよう努めることが大切です。制度や仕組み、生活ルールなどについては、例えば、「給料からの保険料等の控除」や「ごみの分別方法」など、日本人にとって当たり前なことを知らなかったばかりに、社会のセーフティーネットから取り残されたり、近隣住民とのトラブルになることがあります。日本語が難しい外国人の皆さんは、多言語化された情報にアクセスすることで理解がしやすくなります。

円滑に意思疎通を行うためには、やはり日本語が不可欠です。昨年6月に国会で可決・成立した「日本語教育の推進に関する法律」は、日本語教育が地域の活力向上に寄与するものであるとの認識のもと、外国人や海外にルーツを持つ子どもなどが日本語教育を受ける機会を最大限確保することなどを基本理念としています。また、日本語教育に対する行政や企業の責任が初めて明示されました。

さて、県内では日本語教育が様々な機関・施設等で行われていますが、生活する外国人等の皆さんにとって、ボランティア日本語教室が身近な学習の場のひとつではないかと思います。本県には約60団体100教室が活動しています（当協会調べ）。これまで当協会ではネットワーク会議の開催や日本語教育アドバイザーの派遣等を通じて、ボランティア教室の支援に努めてまいりました。来年度以降、県内の現状を把握しながら国及び県の方針等をもとに、支援の充実について取り組む予定です。日本人と外国人が共に安心して暮らせる社会づくりに向け、ぜひご協力ください。

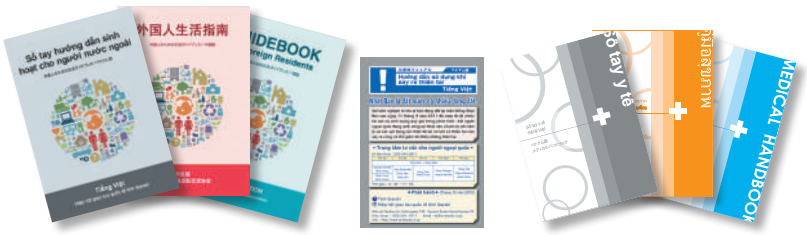
当協会提供の資料
多言語の情報について

当協会では、日本で生活する外国人の方々向けに、主に政府機関が作成した生活情報などの有用な情報を集め、言語ごとに取りまとめたポータルサイト（リンク集）を開設しました。スマートフォンにも対応しています。ぜひご活用ください。アクセス方法は当協会ホームページの新着情報からご確認ください。

ポータルサイトのイメージ

茨城県国際交流協会HP http://www.ia-ibaraki.or.jp/kokusai/index.html

当協会が作成した、生活ガイドブック、災害時マニュアル、メディカルハンドブックは、ホームページから閲覧・利用できます。



茨城県国際教育研究協議会の活動について
高校生によるグローバル社会に向けるメッセージ
＝国際教育弁論大会の意義とは（さらなる飛躍を託して）

茨城県高等学校国教育研究協議会　副会長
茨城県立土浦第二高等学校副校長　原　恵三子

国際教育弁論大会ー高校生のメッセージ（表彰式）

令和元年度に第56回目を迎えた「国際教育弁論大会ー高校生のメッセージ」は，毎年予選を通過した10名の発表者が，それぞれの想いを胸に数々の名場面を繰り広げてきました。グローバル社会への意見を発表するとともに「留学生のシンポジウムー留学生のメッセージ」での意見交換をとおして，世界に対する理解を深め，グローバル社会に生きる力と視点を滋養することで世界にはばたき貢献できる人材を育成することを目的とします。本協議会の他の活動としては，同年度第57回目を迎えた「国際教育英語スピーチコンテスト」，国際協力及び開発途上国に対する理解と認識を深め，国際社会に主体的に生きる態度を育てる「高校生のための地球市民講座（JICA筑波にて100名参加）」や「国際教育指導者講習会」等，長年に亘って時代に先駆けた様々な研修を実践してまいりました。

私自身もこの会に関わることによって，先生方や生徒の皆さんに成長させて戴いたと申し上げても過言ではありません。又，本協議会においては海外からの留学生の日本語の弁論を通しても私たちは多くのことを学びました。特に1992年にアメリカのルイジアナ州にAFSで留学した服部剛丈君がハロウィーンの際に銃弾に撃たれ帰らぬ人となった無念な出来事がありましたが，彼の両親は現在も「息子を射殺したアメリカを恨む中からは何も生まれない。むしろ銃のない日本の社会を（息子が大好きだった）アメリカの若者に見て欲しい」との想いから，「Yoshi基金」を設立し，毎年1，2名のアメリカ人高校生を全米から募集し1年間の奨学金を支給しているのです。10数年前にこの奨学金を受給した高校生が本県の県立高校に留学し服部君の想いを馳せながら日本語弁論大会で茨城県代表として全国大会に出場し，外務大臣賞という第1位に見事輝いたのです。日米間の架け橋とは当にこのことなのです。

本年度は土浦二高の伊藤結人君が「ラクビー・ワールドカップ」にちなんだ【"One team "になろう】というテーマで茨城県知事賞を受賞することができました。

57年間という長い歴史を紡いできた本協議会及び本大会は，この様に当時から人や事象の多様性を尊重し研究進化するとともに海外に対する正しい知識・理解の普及を図ることによって多くの生徒たちが世界で思いっきり力を発揮し活躍できる礎を築いてまいりました。今後もこの会がさらなる発展ができますようにますますのご理解・ご支援をお願い申し上げます。

わが町の外国人リーダー

ボルド ゾルジャルガル

性別：女
出身国：モンゴル国
日本在住歴：4.5年
職業等：行方市地域おこし協力隊員

ボルドさんをご紹介します

私たちとボルドゾルジャルガルさんとの出会いは昨年夏に遡ります。行方市は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会においてモンゴル国を相手国としたホストタウンとなっていますが、同国のウエイトリフティングナショナルチームの事前キャンプを受け入れた時に通訳者として参加したのが彼女でした。ボルドさんはそのキャンプにおいて、同国選手のための良好な練習環境と快適な生活環境づくりに大いに貢献しました。

その後、縁あって当市の地域おこし協力隊員として採用されることになり、ご家族4人そろって市内に移住されました。当市は今回の活動を契機として、モンゴル国との人的・物的・文化的な相互交流を進めていきますが、彼女には両国の架け橋となる役割を担っていただきます。

ボルドさんは、勉強家でとても向上心が高く、どんな困難なことにも明るく前向きに取り組む方です。そんなボルドさんのこれからのご活躍を期待しています。　行方市企画部企画政策課

ボルドさんにお聞きしました

●行方市での活動等でよかったこと、感じていることなどを教えてください。

私は、千葉市から行方市に移り住んでまだ半年も経っていませんが、これまで、行方市のたくさんの方々にお会いできとても感動しています。行方市の自然環境も住んでいる方々も（茨城弁のなまりも含めて）この地域をどんどん好きになっています。

地域おこし協力隊員を委嘱されてから、これまで様々なところでモンゴル国を紹介してきました。行方市の方々には、モンゴル国のことについて、大相撲やウエイトリフティング以外のことはあまり知られていないと感じました。私の任期中に、モンゴル国と行方市の間において多くの分野でご縁ができるよう活動を続けていきます。

児童クラブモンゴル教室

●地域で生活している外国人の方々へのメッセージやアドバイスをお願いします。

日本語が分からないと気にせず会話することが重要です。日本の方々はいろいろなことを教えてくれます。挨拶や日常会話を大事に、地域の活動に参加しながら徐々に日本語を学び成長することが大切です。言語だけでなく、この国の文化を理解することで、お互いの人間関係が深まります。まずは、文化交流のスタートとして、自分の母国語を教えることからはじめてはいかがでしょうか。

ウエイトリフティングナショナルチーム通訳

YOUNG EYES

二つの文化の間に生まれて

在南米県人子弟茨城研修員
黒澤 ダニエル 儀朗

サンパウロ市東洋人街

黒澤ダニエル儀朗と申します。ブラジルはサンパウロ州サンパウロ市で、日本人の父と日系人二世の母の間で生まれた日系2.5世です。ブラジル人だけど、サンバ、サッカーは出来ません!

僕が生まれ育ったサンパウロ州ですが、実はブラジルでも日系人が多いことで有名で、特にサンパウロ市では、世界の裏側にもかかわらず、日本人の食卓に馴染み深い豆腐、納豆、ゴボウ、レンコン、醤油、みりん、昆布等々が簡単に手に入り、モノによっては輸入品のみならず、日系人企業による現地生産のものもあります。更に最近では、元々人気があった和食レストランに並べて、ラーメン屋さんや和風居酒屋なども流行っており、日本人にとってはとても住みやすい街です。

しかし、サンパウロでは、ヤマダ、スズキ、ワタナベと言った聞き馴染みある苗字の方が珍しくない一方、多くの日系人が三、四世で完全にブラジル社会に馴染んでいるため、今は日本語を喋れる人も少なければ、日本の文化との接点も薄くなっている方も多く、日系人以外の親を持つ方も多いです。

それもあって、日本語とポルトガル語両言語喋れる環境で育てられた僕は、非日系人からはともかく、日系人からまで「ニホンジン」と呼ばれる事は少なくはありませんでした。そのため、「完全にブラジルの文化には馴染んでいないし、だからと言って完全に日本人って訳じゃない。その間にいる僕のアイデンティティはどこにあるんだろう?」とずっと悩んできましたが、今回日本に来てとあることに気付きました。

それは、日本がその点では逆に住みやすい事です。それは、言葉も訛っておらず、仕草が他の日本人とさほど変わらない為かも知れませんが、日本での対応が他の日本人とは全く変わらないからです。よくも悪くもなく、普通にされることを大変ありがたく感じます。そこに、生まれが日本じゃなくても受け入れられていると感じ、やっと自分の居場所を見つけたと感じたからです。

SAT テクノロジー・ショーケース 2020 にて

僕は今、産業技術総合研究所（産総研）でロボット研究開発の研修を行っていますが、そこでのコミュニケーションも、専門用語を含めて、基本日本語のみで行っています。日本は今、ロボット技術の最先端を走る国の一つです。だが少子高齢化によって、その技術が受け継がれない恐れがあると伺っております。

研修修了後、日本の大学院の修士課程に入学し、受け入れてくれた国、日本の科学の進歩を支えたいと思います。

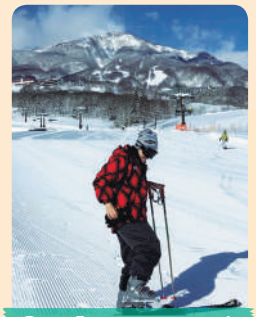
ACROSS CULTURE

ここが違って、おもしろい!

筑波大学　スポーツ国際開発学共同専攻
ゴメス アラウホ ターニャ ステファニア

●エクアドルってどんな国？

赤道が通っている国で、エクアドルという名前も赤道という意味があります。南アメリカの国の一つです。有名なところはガラパゴス諸島です。昔はインカ帝国があり、首都のキトとクエンカ市は世界遺産になっているほどきれいな街です。有名なイベントはカルナバルやセマナサンタで、この日は祝日でお祭りみたいになります。エクアドルの食べ物は、海の方は海鮮料理が有名でセビチェという料理があります。山の方は牛肉、豚肉、お米、ジャガイモが有名で日本に少し似ていると思います。


長野県にてスキー体験

●日本へ来たきっかけは？

剣道です。剣道を長く続けているので、日本には何度も来たことがあります。２年前に勉強をするため鹿児島県にある鹿屋体育大学に入学し、そこで修士号をとりました。その後つくばに来ました。

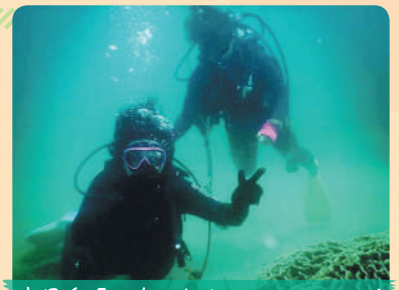
●エクアドルと日本のここが違って、おもしろい！

日本では季節によって様々な趣味ができるところが好きです。赤道が通るエクアドルでは季節が変わりません。海岸の方では一年中熱く、山の方では一年中涼しいです。着る服もあまり変わりません。私の故郷は標高2850メートルにあるキトという場所ですが、天候は１年を通して春と秋みたいな感じです。ですからエアコンや暖房を使う必要はありません。日本では季節によって、春は花見、夏は音楽フェスや海でシュノーケリングをしたり、秋は紅葉を見に行き、冬はスキーや山できれいな景色を見ながら温泉に入ったりして楽しい時間を過ごせます。ですから日本で季節によって出来るアクティビティが違うところがおもしろいところだと思います。

軽井沢にて

●将来の目標は?

国際経験を活かし、スポーツを通して社会の為に少しでも貢献できる仕事をしたいと思っています。また、私は日本が大好きなので、日本の文化や食についてたくさん触れていきたいと思います。


鹿児島県の海で友人とシュノーケリング

地球だより

2018年5月教室にて

ドミニカ共和国 国立造形美術学校での日々

JICAシニア海外協力隊（美術・ドミニカ共和国）　天野 富佐子

強烈な太陽光線が、午前10時過ぎには街中をくっきりと照らし出す。日が昇る7時頃からそれまでの僅かな時間、カリブ海を渡る爽やかな風が絶え間なく吹き上がる。この時間は私にとって、日本の夏の終わりを思い浮かべる甘美でかぐわしいものであった。木々は常に葉を茂らせ花は絶えることなく歩道の果樹は気前よく路上に実を落とす。天国と見紛うほどの気候の良さと自然の豊かさにすっかり気を許す頃、冬さなかの日本に帰国となった。70歳を目前にしての応募は体力気力とも自信はなかったが現地で暮らす内に湧き上がる好奇心や“夢”のようなものが弱気を払拭して生命力が湧いてくるのが感じられた。だがしかし現実は朝から路上に死んだように横たわる貧しい人々や空き缶や紙コップで小銭をねだる物乞いたちをしり目に、渋滞する車と排気ガスを避けながら水溜りや穴だらけの石の歩道を汗だくで歩き職場にたどり着く日々であった。そこは首都サントドミンゴの東、世界遺産に登録されている旧市街の歴史地区ソナコロニアルだ。東京で言えば浅草の門前町のように、古い教会に向かって土産物屋が軒を連ね、近くにはオサマ川の河口があり毎週のようにアメリカ人観光客が降り立つ。その河口近くに国立造形美術学校があり私はそこで教師として二年間陶芸教室を任された。街中で日本人と出会うことはまずない。にもかかわらず、街を走る中古車は殆ど全てと言っていいほど日本車であった。日本がどこにあるか知らない人も多くアジア系の顔を見れば”チーナ!”と呼んで囃すが特に悪気があるわけではない。人懐っこさと決して落ち込むことのない明るい人柄に私はその気候風土とともに、いつの間にか魅了されていた。

2019年12月展示会レセプションにて

県だより

2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機とする国際交流の推進 ～茨城県に，海外選手団がやってくる！～

茨城県オリンピック・パラリンピック課　係長　中村 一博

東京オリンピック・パラリンピック開催が決定して以降、茨城県ではこれまで、各市町村、県内の大学等と連携し、大会に参加する各国･各地域の選手団が時差調整などのために実施する「事前キャンプ」の誘致に取り組んできました。

これまで、様々な国・地域のオリンピック委員会等が県内を視察され、その際、茨城の食や自然の豊かさ、東京へのアクセスの良さ等をアピールした結果、2020年3月現在で、県及び県内14市町が13の国・地域と、事前キャンプ実施にかかる合意書の締結に至っています。

「事前キャンプ」を県内で受け入れることは、トップアスリートを間近で見る絶好の機会となり、それら選手との交流を通じ、県民のスポーツに対する興味･関心の向上や、国際交流の推進、本県の魅力発信など、多くの効果が期待できるところです。

R1.5.27 女子バスケットボールベルギー代表チームとの交流時記念写真。

R1.11.25 マラソンベルギー代表選手が小学校を訪問。選手がこどもたちに走り方を指導。

昨年2019年にも、既に県内各地で国際大会等の事前キャンプを受け入れており、その際に、一部の練習を公開したほか、選手が小学校を訪問するなど、具体的な交流事業も既に実施され、参加した児童からは「思い出になった」という声が挙がりました。さらに、選手がインスタグラム等で交流の様子を本国へ送ったところ、「ぜひ茨城へ行ってみたい」という方が何人もいたとのことです。

また、県内の「ホストタウン」（…参加国･地域との人的･経済的･文化的な相互交流を図る地方公共団体として内閣官房に登録された自治体）では、オリンピック・パラリンピックを契機とした国際交流推進のため、様々な交流イベントを実施する予定です。

県オリンピック・パラリンピック課では、当該事前キャンプ・ホストタウンイベントの機会を通して、これまで海外の方と接する機会のなかった方や、こどもたちなど若い世代の皆様にぜひご参加いただき、国際感覚醸成や多文化への理解を深めていただくとともに、スポーツの素晴らしさを実感する機会としていただきたいと考えております。

この夏、県内で実施される事前キャンプ（の練習公開日）・ホストタウンイベントに、ぜひご参加ください!

事前キャンプの練習公開日等については、県東京オリンピック・パラリンピック推進会議ウェブサイトから→

for you…

令和元年度使い残した年賀状で国際協力しよう！集計結果

令和元年度の書き損じハガキ等の集計結果は下記のとおりとなりました。

これらは国際協力活動を行う団体等に寄付させていただきます。皆様のご厚意に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

・書き損じハガキ	3,696枚
・使用済切手	約12.4キログラム
・未使用切手	100,548円
・使用済テレフォンカード	203枚
・外国紙幣	252枚
・外国コイン	約21.6キログラム
・現金類	51,309円

賛助会員を募集しています！

当協会では、茨城県に在住する外国人の皆様が安心して生活できるよう、多言語による相談事業や情報提供などを実施し、外国人の皆様にも住みよい地域づくりに努めています。また、より多くの県民の皆様が外国の方々と交流し相互理解を深める機会を提供するために、留学生や在住外国人の方々、交流団体の皆様と連携し、様々な交流事業も展開しています。

皆様からのご支援をもとに、さらに充実した活動を続けて参りたいと存じますので、賛助会員へご加入いただき、お力添えください。

会員になると、機関紙「ふれあい茨城」の送付、各種イベント等情報の提供、協会施設の優先利用、提携旅行社の割引などの特典があります。

また、賛助会員は、公益法人への寄付として申告により所得税や法人税の優遇措置の適用を受けることができます。

皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

賛助会費	団体会員	1口 10,000円／年
	個人会員	1口 3,000円／年

※賛助会特典、税金の優遇措置の詳細については、当協会HPをご覧ください。

●令和元年度 団体賛助会員（令和2年1月末現在）※敬称略

石岡商工会議所
伊奈工業 株式会社
「茨城アジア教育基金」を支える会
いばらき印刷 株式会社
一般社団法人 茨城県医師会
公益財団法人 茨城県開発公社
茨城県火災共済協同組合
一般財団法人 茨城県環境保全事業団
茨城県行政書士会
一般社団法人 茨城県経営者協会
一般財団法人 茨城県建設技術管理センター
一般財団法人 茨城県建設技術公社
茨城県市長会
社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会
茨城県商工会議所連合会
茨城県商工会連合会
茨城県女性のつばさ連絡会
茨城県信用組合
茨城県信用保証協会
茨城県青年海外協力隊を育てる会
茨城県世界青少年コミュニケーションクラブ（WYCCI）
茨城県総合健診協会
茨城県中小企業団体中央会
茨城県町村会
茨城県日中友好協会
株式会社 茨城ポートオーソリティ
鹿嶋国際交流JCサークル
鹿島都市開発 株式会社
鹿島埠頭 株式会社
鹿島臨海通運株式会社
鹿島臨海鉄道株式会社
神栖市国際交流協会
韓国語上級講座
株式会社 関電工 茨城支店
北茨城国際交流会
古河市国際交流協会
国際ソロプチミストつくば
コスモエコー
コトブキ印刷 株式会社
JA茨城県中央会
株式会社JTB
下館商工会議所
株式会社 常陽銀行
常陽ビジネスサービス 株式会社
常陽保険サービス 株式会社
昭和建設株式会社
株式会社 セイキョウ
関彰商事 株式会社
センター印刷 株式会社
株式会社 高野高速印刷
筑西市国際友好協会
チョッ サラン
株式会社 筑波銀行
株式会社 つくば研究支援センター
電機連合茨城地方協議会
那珂市国際交流協会
日本原子力発電 株式会社 東海事業本部 地域共生部
日本語学校つくばスマイル
日本製鉄株式会社 茨城支店
日本労働組合総連合会 茨城県連合会
ネパール子ども奨学支援会
ハングル初級教室
ハン サラン
常陸大宮市国際交流協会
日立商工会議所
株式会社 ひたちなかテクノセンター
ビバ エル エスパニョール
広沢商事 株式会社
ふじの会
フレンドリーあんず
フレンドリージャパンワールド
株式会社 ホテルグランド東雲
水戸内原国際交流ふれあいの会
水戸商工会議所
水戸信用金庫
水戸ユネスコ協会
メークス株式会社
メサフレンドシップ
株式会社 めぶきリース
特定非営利活動法人 豊かな大地
ラブニール
ワタヒキ印刷 株式会社
他1社　計83団体

皆様のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

JICA海外協力隊2020年春募集のお知らせ

JICA海外協力隊2020年春募集を行っております。今回の応募を考えている方はもちろん、

・いつか応募してみたい！
・JICA海外協力隊の概要を知りたい！
・開発途上国について知りたい！
・JICA海外協力隊って、どんな仕事があるの？

などJICA海外協力隊に関心のある方、是非、JICA茨城デスクまでお問合せください!

【募集期間】
2020年2月20日（木）～2020年3月30日（月）正午締切（ウェブ応募）

【JICAボランティアHP】
https://www.jica.go.jp/volunteer/application/index.html

【お問い合わせ先】JICA茨城デスク
E-mail: jicadpd-desk-ibarakiken@jica.go.jp
TEL:029-241-1611　（公財）茨城県国際交流協会内

茨城県留学生親善大使を募集します

国際交流活動に意欲があり、県内の学校などで母国について紹介できる外国人留学生を「茨城県留学生親善大使」に任命します。（2020年6月頃に任命式開催予定）

興味のある方は、ぜひ当協会のホームページをご覧ください。

事業ボランティアを募集します

茨城県国際交流協会が主催する「外国人による日本語スピーチコンテスト」などの事業を通して、国際交流、国際協力活動のお手伝いをしていただくボランティアを令和2年度も募集します。詳しくは、当協会のホームページをご参照ください。

Said & Did

G20関係各国との交流プログラムを実施しました

令和元年6月にG20茨城つくば貿易・デジタル経済大臣会合が開催されたことを契機とし、未来を担う子どもたちの国際理解を深めるため、G20関係各国（招待国含む）について学ぶ機会を提供する事業を実施しました。

県内21の小・中・高等学校及び特別支援学校がそれぞれG20関係各国から一国を選択し、当該国の大使館職員等を講師として学校にお招きしました。内容としては、各国の歴史や日本との関わり・文化・食・学生生活などについての講演やディスカッション、言語の学習、ダンスや音楽・遊びの体験など、それぞれの国についての学びが深まる充実した交流プログラムとなりました。それに加え、子どもたちが外国人講師に対してプレゼンテーションや遊び・踊りの発表を行い、日本文化を伝える取組みを実施した学校もありました。

学校からは、「子どもたちの当該国や世界への興味関心が高まった」「今後も相手国についての学習を続けたい」「大使館訪問や将来的には姉妹校提携への取組みを通して交流を続けたい」などの声が寄せられました。本事業は今年度のみの実施となりましたが、これをきっかけとして更なる学習や交流に繋がることを期待しています。

ご協力いただいた大使館等関係機関、そして非常に充実した内容の授業をして下さった講師の皆様には、厚く御礼申し上げます。

第16回 日本発／世界発：青年のメッセージを実施しました

令和元年12月12日（木）、県立図書館視聴覚ホールにて第16回 日本発／世界発：青年のメッセージを開催しました。

本事業は、高校生がグローバル社会への意見を発表するとともに、留学生の意見交換をとおして、世界に対する理解を深め、グローバル社会に生きる力と視点を涵養することで世界にはばたき貢献できる人材を育成することを目的としており、毎年実施されています。

第1部の「第56回国際教育弁論大会―高校生のメッセージ―」では、県内の高校生10名が国際社会に対し、考えていることなどを発表しました。

第2部の「留学生シンポジウム―留学生のメッセージ―」では、コーディネーターの進行のもと、県内の大学に通う留学生4名が出身国（中国、ロシア、ミャンマー、インドネシア）の紹介、留学の動機等を発表し、会場との質疑応答を行い、最後に、日本の高校生や若者に向けたメッセージを発信しました。

参加者の皆様にとって、留学生の出身国について興味を深め、世界の人々とより良い社会づくりに向けて協働する姿勢を育む一助となれば幸いです。

外国人のための一日無料弁護士相談

茨城県内では年々在住外国人数が増加し、現在は県西・県南地域に多くの外国人の方々が住んでいます。外国人の場合、言語の問題があり通常の相談機関に相談しにくいことに加え、滞在が長期化すると問題が複雑化しやすく専門家による適切なアドバイスが必要となること等から、当協会では、毎年、県西地区の筑西市において「外国人のための一日無料弁護士相談」を実施し、外国人が相談できる機会を提供してきました。

しかし、県西と同様外国人集住地域である県南地域では今までそのような機会がなかったことから、今年度は新たに、県南地域の中核都市である土浦市の協力を得て、9月1日（日）に一日無料弁護士相談を実施し、在留資格、国際結婚、その他生活全般についてタイ、フィリピン、ベトナム等の出身の方々から26件の相談に対応しました。

また、県西地域でも例年通り、11月17日に相談会を実施し、バングラデシュ、ペルーなどの出身の方々から24件の相談に対応しました。

編集・発行
（公財）茨城県国際交流協会
〒310-0851 茨城県水戸市千波町後川745 ザ・ヒロサワ・シティ会館分館2F
TEL029-241-1611　FAX029-241-7611　ホームページ https://www.ia-ibaraki.or.jp/　メールアドレス iia@ia-ibaraki.or.jp